

製品名: M-RIP ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab14095**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	115kDa

抗原情報

遺伝子名	MPRIP
別名	MPRIP; KIAA0864; MRIP; RHOIP3; Myosin phosphatase Rho-interacting protein; M-RIP; Rho-interacting protein 3; RIP3; p116Rip
遺伝子 ID	23164/23164
SwissProt ID	Q6WCQ1
免疫原	ヒト M-RIP の内部領域から得られた合成ペプチド。

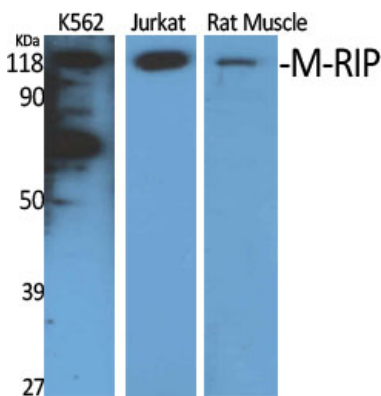
背景

機能: ミオシンホスファターゼをアクチン細胞骨格に結合させる。RhoA および ROCK1 によるアクチン細胞骨格の調節に必要。欠乏

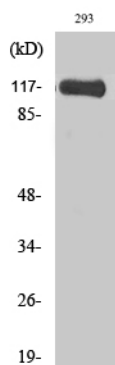
すると、リン酸化ミオシンによるアクチン線維の安定化を通じて、平滑筋細胞内のストレスファイバー数の増加につながる。MRIP およびその F-アクチン結合領域の過剰発現は、神経細胞内のストレスファイバーの分解につながる。、類似性: 1つの PH ドメインを含む。、類似性: 2つの PH ドメインを含む。、細胞内局在: F-アクチンと共局在する。、サブユニット: N 末端を介して F-アクチンに結合 (類似性による)。隣接するコイルドコイルドメインを介して RHOA、PPP1R12A/MBS、および PPP1R12C/MBS85 に結合。、機能: ミオシンホスファターゼをアクチン細胞骨格に結合させる。RhoA および ROCK1 によるアクチン細胞骨格の調節に必須。欠乏すると、リン酸化ミオシンによるアクチン線維の安定化を通じて、平滑筋細胞におけるストレスファイバー数の増加につながる。MRIP およびその F-アクチン結合領域の過剰発現は、神経細胞におけるストレスファイバーの分解につながる。、類似性: PH ドメインを 1 つ含む。、類似性: PH ドメインを 2 つ含む。、細胞内局在: F-アクチンと共局在する。、サブユニット: N 末端を介して F-アクチンに結合する (類似性による)。隣接するコイルドコイルドメインを介して RHOA、PPP1R12A/MBS、および PPP1R12C/MBS85 に結合する。、

研究分野

画像データ



M-RIP ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



M-RIP ポリクローナル抗体を用いた 293 細胞のウェスタンブロット解析